



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2010.12

No. 320

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



武蔵丘陵森林公園は自宅から近いこともあって、四季を問わず時々園内を散歩しています。新緑から紅葉そして冬木立のたたずまいなど、自然の移ろいを肌で感じながらぶらぶら過ごすのは至福のひとつです。今回は森林公園の野鳥とクモについてご紹介します。

● 野鳥

森林公園は東西1km、南北4km、面積304㏊、標高差50mに及ぶ広大な丘陵地です。園内は多くの人々によく歩かれているポピュラーな道と、人の少ない細道とが混在しています。

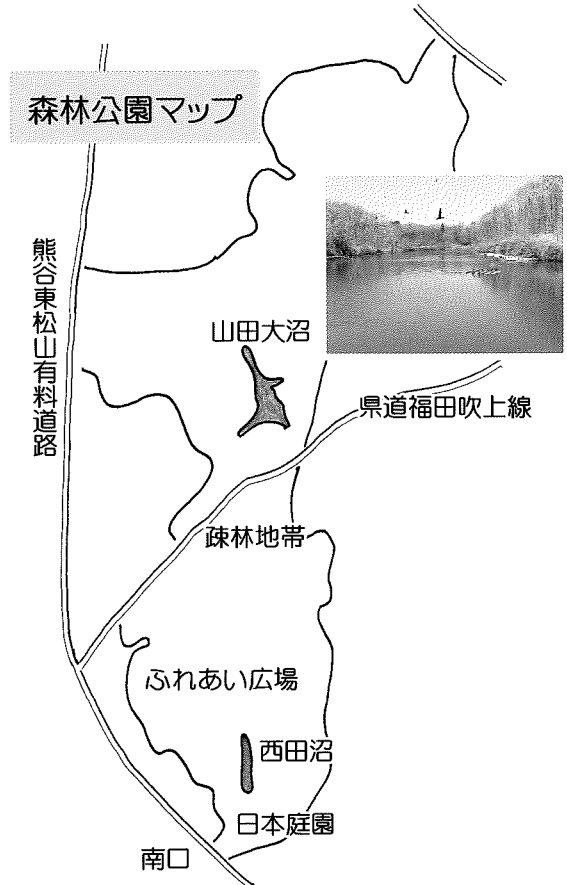
野鳥との静かな出会いを求めるならば断然後者でしょう。北の方面の細道は訪れる人も少なく、まして平日では静かすぎて心細いばかりです。それだけに北方面は探鳥には良さそうな気がするのですが、広い園内どこでも野鳥の出現にはあまり差がないように感じています。1日で園内すべてを回るのはとても無理で、速く歩いても探鳥には南方面、北方面それぞれ1日がかかります。

ここでは日本野鳥の会埼玉が冬場の探鳥会(P8行事案内参照)でよく歩いているルートに沿って、いくつかの探鳥ポイントをご紹介します。

なおキジバト、コゲラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワなどの留鳥は園内どこでも見られますし、ヒガラやクキタダキが見られるとすれば主にアカマツの葉裏が狙いで、特に場所的なポイントがあるわけではないと思われしますのでここでは省略します。

南口から入園してすぐの芝生広場が日本庭園です。シロハラ、アオジ、シメなどがよく見られ、オオタカ、ハイタカ、ノスリなどの猛禽が飛ぶこともあります。

日本庭園から西田沼の脇を通るとふれあい広場に出ます。背の高いラクウショウの木が



目印になる場所です。広場とその林縁、それに続く舗装の遊歩道一帯ではコジュケイ、モズ、ルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、カシラダカ、アオジ、シメなどがよく見られます。ときにアオゲラ、アカゲラ、トラツグミ、ミソサザイ、ミヤマホオジロ、ベニマシコ、イカルなどがこれに加わり、さらにコガラやゴジュウカラが見られる年もあります。その年により出現鳥に差が出るようです。カラの混群を頭上にやり過ごしながらかじっと待機するのも楽しいでしょう。オオタ

カの声が聞こえてくることもあります。近くの記念塔のあたりでは5月から7月にかけてキビタキの囀りが聞こえます。葉が茂ってしまう時季なのでその姿を見るのは少し難しいかも知れませんが。

遊歩道をさらに北に向かうと疎林地帯に出ます。芝生の斜面に大きなアカマツが点在し、ここはカエデ園と並んで園内屈指のビンズイのポイントです。一緒にカシラダカやアオジも歩いていることでしょう。そしてルリビタキ、さらにトラツグミ、アカハラ、アトリも見られればラッキー。カヤクグリが見られたこともありました。

探鳥会の最奥の地点は山田大沼(地図 写真)です。時季になると多くのカモの仲間が集まって来るので観察が楽しい場所ですが、ここ数年は飛来数が減少しているのが残念です。その一因としてカワウの影響も無視できないように思います。

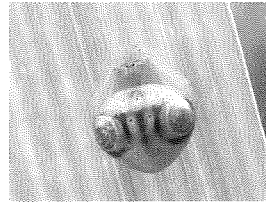
カワウは全国で15万羽いると推測され、ここ山田大沼のコロニーでも毎年1200羽以上が巣立っているといわれています(2010.9.8 TBS 報道番組放映)。繁殖場所の沼を囲む樹木は白く変色し異臭が漂います。緑色に濁った沼でカモ達はエサを確保できるのでしょうか。カモの飛来数の減少はここだけに限ったことではないのかも知れませんが、やはり気になるところです。この冬の山田大沼はどのような状況になるのでしょうか。

● クモ

夏場、私の森林公園での自然観察の対象は野鳥から山野草や虫などに移ります。

その中から今回はいくつかのクモをご紹介します。森林公園には様々なクモが生息していますが、トリノフンダマシ属のトリノフンダマシ、オオトリノフンダマシ、シロオビトリノフンダマシ、アカイロトリノフンダマシの4種を見ることができます。いずれも埼玉県では準絶滅危惧種に指定されている貴重なクモです。真夏から秋口にかけてが観察時季で、昼間は主にススキの葉裏にじっとしてい

るので、そのような場所を丹念に探し回ると見つかります。光っているような姿が、濡れた鳥の糞に似ているので、フンダマシなどという可愛そうな名前がつけられているのですが、私には必ずしもそのようには見えません。

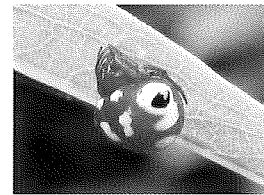


オオトリノフンダマシ (左写真)

は秋口には体長10mmほどにもなりますが、どこかカマキリの顔に見えま

す。カマキリに擬態しているという説があります。

アカイロトリノフンダマシ (右写真) は体長5mmほどで、こちらは赤いテントウムシにそっくりです。ど



う見てもクモには見えず、胸に留めればアクセサリーになりそうです。野鳥などが嫌がって食べないテントウムシに擬態しているのかも知れません。

その他、生息域を北上させているスズミグモが見られるのもここでの特筆です。このあたりが現在の分布北限付近といわれています。絹で編んだような直径50~80cmもある大きなドーム状の美しい網を張るクモで、その網は立派な芸術作品のようです。

● おわりに

武蔵丘陵森林公園にはじつに多くの動植物が暮らしています。しかし近年、南方系の生物が侵入し、さらにはガビチョウ、ソウシチョウ、アカボシゴマダラなどの外来生物までもが侵入するに至り、その生息環境が急速に変化しています。

従来から暮らしていた動植物が今後どのような変遷を辿るのか大変に危惧されます。そして貴重なこれらの多くが、森林公園関係者の生息環境保護の取り組みにより、辛うじて命を繋いでいるということも考え併せると、生態系を維持していくことの難しさを思い知らされます。

2010年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉 研究部

日時：2010年9月20日 9:40～11:20

場所：さいたま市 大久保農耕地

天候：曇り

日本海からの気圧の谷が近づいてきたため、雲の多い天気でしたが、会員12名の協力が得られました。ありがとうございました。

稲刈りもすっかり終わり、田んぼはほとんど乾いた状態の中、A区でタシギが1羽、B区でタシギが4羽、タシギ属不明種が1羽、合計6羽が観察されたただけでした。ムナグロが観察されなかったのは、2005年以来5年ぶり

でした。はっきりしたことはわかりませんが今年の猛暑に関係があるのかも知れません。

2つの表は地区(A・B・As・A')ごとのムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類の個体数と、今までの秋の調査結果をまとめたものです。なお、4地区を定期的に調査するようになったのは1994年からですが、春の表にあわせて1993年から載せました。

タシギ属不明種はタシギかジシギ類のどちらか不明なので、種数には入れませんでした。

(石井 智)

秋のカウント結果 (大久保農耕地)

年	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
調査日	9/15	9/15	9/15	9/15	9/16	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/14	9/13	9/18	9/19	9/18	9/17	9/15	9/21	9/20
天候	晴れ	曇り	晴れ	雨	雨	曇り	曇り	雨	雨	晴れ	雨	曇り	晴れ	曇り	曇り	晴・曇り	晴れ	曇り	晴れ	晴・曇り	晴れ	曇り	曇り	曇り
1 タマシギ					1																	2		
2 コチドリ		26						11	1		13													
3 シロチドリ				2	2																			
4 ムナグロ	179	112	4	52	142	10	24	74	21	3	203	155	105				110			13	8	70	8	
5 ケリ		2																						
6 キョウジョシギ					2																			
7 トウネン					2		2																	
8 ヒバリシギ		1																						
9 エリマキシギ											1	2												
10 アオアシシギ																					5			
11 クサシギ	1	1			1			1		1													3	
12 タカアシシギ	36	15		12	17						4						3			6	1	7		
13 イソシギ				5			1				1												1	
14 ホウロクシギ														1										
15 コシャクシギ												6												
16 タシギ	29	72	38	20	185		80	19	11	1	51	24	6			17	9	1	60	23	15	4	9	5
17 オオジシギ										2				1									2	
タシギ属	2	1			8			2			1	2	1			3				2	2			1
18 7羽北ヒタシギ					9																			
チドリ類											1													
シギ類													1					1	1			1		
合計	247	230	42	86	374	10	107	107	33	7	275	189	114	1	0	23	110	2	67	44	40	75	17	6

ムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類

	A		B		As		A'	
	ムナグロ	ムナグロ以外	ムナグロ	ムナグロ以外	ムナグロ	ムナグロ以外	ムナグロ	ムナグロ以外
1993年	24	74	0	12				
1994年	0	10	1	6	0	2	73	16
1995年	9	8	4	1	8	3	0	0
1996年	0	0	0	4	3	0	0	0
1997年	0	38	0	4	0	0	203	31
1998年	30	1	0	24	0	0	125	7
1999年	18	3	0	5	0	0	87	1
2000年	0	0	0	1	0	0	0	0
2001年	0	0	0	0	0	0	0	0
2002年	0	13	0	10	0	0	0	0
2003年	0	1	0	2	0	0	110	0
2004年	0	2	0	0	0	0	0	0
2005年	0	10	0	57	0	0	0	0
2006年	3	5	10	23	0	0	0	1
2007年	3	6	4	23	0	0	1	3
2008年	70	0	0	5	0	0	0	0
2009年	8	8	0	1	0	0	0	0
2010年	0	1	0	5	0	0	0	0



野鳥情報

蓮田市西城沼公園 ◇9月10日、サンバ3羽が低く旋回。その内の1羽がツミに追われて屋敷林に逃げ込んだ。9月18日、尾羽のないメジロが数羽、桜の枝を移っていった。今年生まれの兄弟だろうか。ケヤキの樹間からシジュウカラが5羽+飛び出した。続いてエナガが同じく5羽+飛び出してカエデの葉に隠れた。9月24日午前9時50分、ハシブトガラス30羽土が西から東に飛んだ。ずいぶん朝寝坊なカラスだ。夕方の晦入り時は東から西に300羽+が通過する。9月28日夕刻、変なカラスと思ったらカケス4羽、頭上を通過して屋敷林で散った。今季初認。昨年このこでの初認は9月25日だった。9月30日、カケス8羽、ふわふわと北から南に通過。10月2日、オオタカが頭上を旋回して南に去った。ツミが枯れ木の梢で羽繕い。ヒヨドリが渡ってきたのだろう、騒がしく鳴き出した。カケスが5羽、屋敷林に入った。10月10日、センダイムシクイがメジロの群れと一緒にカキの木とウメの木を行ったり来たり。その中のメジロ1羽がヒヨドリの鳴き真似をした。その他、カワセミ、カケス、モズ、コジュケイなど(長嶋宏之)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇9月12日~13日、コサメビタキ2羽、エゾビタキ1羽。9月24日、同所付近で今季初認のジョウビタキ♂1羽。人が通りかかるとすぐに飛び去り、その後付近を探しても見つからない。まだ移動の途中で定着していない(海老原美夫)。

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇9月21日、オナガガモ3羽、この公園で今季初認(松原)。

さいたま市緑区大門 北緯35.8889 東経139.7361 ◇9月21日、コガモ数羽。今季この場所で初認(松原)。9月29日、コガモ60羽土、オナガガモ2羽、カルガモ30羽土、ヒ

ドリガモ3羽、オオバン2羽、バン1羽、アオサギ2羽、コサギ3羽、カワウ4羽、カイツブリ5羽+、ヒバリ5羽、ノスリ1羽、ツバメ2羽、モズ高鳴き(長嶋宏之)。

さいたま市岩槻区大野島 北緯35.9377 東経139.7300 ◇9月22日、ヒドリガモ♂2羽。大分換羽が進んでいた。今季この場所で初認(松原)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇9月24日、元荒川でアオアシシギ1羽、私にとって、この場所での観察は初めて。イソシギ、カワセミ。9月25日、アオアシシギ、イソシギ、イカルチドリ(菊川和男)。◇9月29日、カケス4羽、フワフワと飛翔。ヤマガラ5羽、キセキレイ1羽、キビタキ♀1羽。10月3日、あちこちでエゾビタキ確認、計10羽一。10月4日、エゾビタキ8羽、ヤナギの木にキビタキ♂1羽。10月5日、エナガの声、アカゲラ♀1羽。ツミ幼鳥が暗い水路で水浴びを終え、枝で羽繕い。サンバ1羽が舞い、「チョーチョー」の声と共にアオアシシギ1羽が飛来。元荒川畔に降りたようだ。カケス、ヤマガラ、キビタキ♀2羽、エゾビタキ3羽など。10月7日、エゾビタキ計10羽+、コサメビタキ1羽、キビタキ♀2羽(1羽はミズキの実がうまく飲み込めず、落としていた)。カケス。ツツドリ1羽、虫喰いだらけのクルミの木にとまり、毛虫を食べていた。10月13日、ヤマガラ、キセキレイ、カケス、エゾビタキ約10羽、キビタキ♂1羽♀10羽土、アカゲラ♀1羽など。相変わらずモズが目立つ。ヒヨドリの小群が鳴きながら通過して行った(鈴木紀雄)。

上尾市瓦葺 ◇9月24日、県道栗橋幸手線脇の遊水地で飛翔するノビタキ1羽、今季初認(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区飯塚 北緯35.9391 東経139.7267 ◇9月29日、カケス1羽、頭上を横切り南東に飛んだ。腰の白斑が目立った(長嶋宏之)。

さいたま市岩槻区野孫 ◇9月27日、収穫後の田んぼでそれぞれにくつろぐケリ14羽。その多さにビックリ(鈴木紀雄)。

さいたま市見沼区膝子 ◇9月29日、セイタカアワダチソウの茂る草地でノビタキ3羽。10月2日、あちこち飛び回り、草にとまったり、道路に降りて採餌するノビタキ計5羽。10月6日、ノビタキ3羽の群れを2ヶ所で確認（鈴木紀雄）。

さいたま市緑区高畑 ◇9月29日、埼玉スタジアムでチョウゲンボウ♀1羽、サギが羽を広げた形をした屋根の下にとまっていた（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区大戸 ◇9月30日、遠方の畔でノビタキ2羽（鈴木紀雄）。

羽生市・羽生水郷公園 ◇10月1日、ヒヨドリ50羽と20羽の群れが鳴きながら樹冠に沿って飛んだ。渡ってきたのだろう。昨年よりも2日早い初認だ。カッコウの仲間と思われる鳥がケヤキの中に飛び込んだ。探したが見つからなかった。10月19日、モズみをカワセミが追いかけた。何が気に入らなかったのだろう。アリスイがモズみと同じ灌木にとまっていた。お互い知らん振りしていた。コガモ30羽とカルガモ数羽に混じってヨシガモが1羽泳いでいた。岸にはゴイサギの若が20数羽ジッとしていた。カワラヒワが騒ぎ出したと思ったら、オオタカが悠然と輪を描いていた。遠くにノスリの姿も。帰り際、チョウゲンボウがカラスに追われながら飛んでいた（長嶋宏之）。

蓮田市黒浜 ◇10月1日午前8時30分、自宅庭でケリ1羽を見る。東南から北西に鳴きながら飛ぶ。これで自宅での観察種が58種になった。10月5日、オナガの群れ5羽＋がウドの実を啄んで、2株の実を全部食べてしまった。10月28日、ジョウビタキ♀。昨年と同じ日の初認。今年も♀が我が家の庭を陣取った（長嶋宏之）。

さいたま市南区大谷口 ◇10月3日、午前8時45分、サシバ19羽が上昇気流に乗って円を描きながら高度を上げていくタカ柱を観察（大井智弘）。

北本自然観察公園 ◇10月3日、高尾の池にシマアジ♀タイプ1羽。コガモとの識別には嘴の大きさを見比べるといい。両種は体の大きさは同じくらいだが、シマアジの嘴

は図鑑のイラスト以上に大きく見える（榎本秀和）。

蓮田市黒浜 ◇10月6日、A氏、F氏、N氏、N氏、T氏の5名と黒浜沼で杭に止まるクロハラアジサシを観察。黒浜沼では2001年以来2度目の観察（田中幸男）。

表紙の写真

スズメ目ツグミ科ツグミ属マミチャジナイ

11月2日、狭山市内の公園で数羽がアオハダの実を食べていた。久保田忠資（狭山市）

「ウの仲間です」

小林みどり（神奈川県大和市）

頭上高く、ウが飛んでゆく。カワウか、ウミウか？ 埼玉県内だったら、まず迷うことはないだろう。ところが沿岸部になると両方いる場所もあり、慎重な識別が必要になる。顔をじっくり観察できる状況ならともかく、飛んでいる時はかなり難しい。

カワウ、ウミウ両種の記録がある場所では、浜口哲一氏は、飛んでいるウを「ウの仲間です」としか言わなかったそうだ。このエピソードを聞いての反応に、その人の“ベテラン度”が現れる。「え～、ウソでしょ～」というのはビギナー。ビギナーは、鳥の専門家なら、いついかなる時でも鳥を識別できると思ってることが多い。「翼の位置でわかるんじゃないの？」などというのは、普通種をひと通り見てしまい、ライフリストを1種でも増やそうと夢中になっている段階。自分の識別に自信をもてるようになり、何でもわかったような気がしてくる。私にもそういう時期があった。やがて、この自信は打ち砕かれる。

そういう挫折を何度も経験し、年月を重ねて来た人々は「ウの仲間です」の話を知ると、ひとこと「さすが浜口さんだね…」。その心の中では我が身を振り返り「見習わなくては…」と思っている。

<自然観察>に関連する様々な分野で数多くの業績を残された浜口氏は、今年5月3日、病気のため逝去された。享年62であった。



行事案内



ノスリ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費:就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。 **持ち物:**筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。 **解散時刻:**特に記載のない場合、正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止。小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：12月4日(土)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。
または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:21→春日部 7:36
→栗橋 7:55→柳生 8:06 着。または JR 宇都宮線浦和 6:55→大宮 7:03→栗橋 7:38 着で、東武日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：内田、橋口、玉井、四分一、中里、植平、進士、茂木、山田(東)、佐藤、佐野、野口(修)

見どころ：今年も谷中湖・谷中ブロックの浮島上空でチュウヒ、ミサゴが顔を見せてくれるかな。ハヤブサ、ノスリ、トビたちはどうかな。湖には水鳥たち、歩く左右にジョウビタキ、オオジュリン、ベニマシコなど。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：12月5日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。
交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス 8:31 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、浅見、岡安、大坂、内藤、立岩、永野、山野、長谷川、飛田、吉原(早)、相原(修)、相原(友)

見どころ：葉を落とすのが遅い石戸の森はこれからが鳥見のベストシーズン。梢をわたるカラ類の混群、高く舞うタカ類、草原では赤い鳥や青い鳥を期待。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：12月5日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：伊藤(芳)、手塚、若林、新井(勇)、赤堀、須崎、藤田(敏)、野口(修)

見どころ：鳥見には最高の季節がやってきました。勢揃いの鳥たちが両手？を挙げて歓迎してくれると思います。冬の始まりの季節ですが暖かい服装でお出かけください。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：12月11日(土)

集合：午前9時30分、西武狭山湖線西武球場前駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、高橋(優)、持丸、小林(ま)、水谷

見どころ：季節の移ろいを超えて悠然と水を湛えています。今冬はどんな水鳥たちが湖面を賑わせてくれるのでしょうか？ シーズン幕開けを一緒に体感しましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：12月12日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居

8:49発に乗車。

担当：千島、森本、中里、後藤、大澤、倉崎、高橋（ふ）、藤田（裕）、栗原、飛田、新井（巖）、鵜飼

見どころ：土手を歩くとジョウビタキ、アオジ、カシラダカ、ベニマシコたちが出迎え、空にはタカ類が飛んでいるかも。工事が終了した明戸堰上流は浅瀬になり、カモは少なくなりました。給餌がなくてもコハクチョウは来てくれています。

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：12月12日（日）

集合：午前8時35分、東武野田線岩槻駅前。

集合後路線バスで現地へ。または午前9時、文化公園駐車場（国道16号側）。

交通：東武野田線大宮8:18発、または春日部8:18発で岩槻下車。

担当：長野、玉井、田中、石川、吉安、長嶋、榎本（建）、野村（弘）、小林（善）

見どころ：年末に近い一日、公園とその周辺を散歩気分です。冬鳥を探します。観察しやすいコースですので、初心者の方大歓迎です。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：12月15日（水）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。

または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:21→春日部7:36→栗橋7:55→柳生8:05着。またはJR宇都宮線浦和6:55→大宮7:03→栗橋7:38着で、東武日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：玉井、大坂、楠見、田中、植平、松村、藤澤

見どころ：冬の渡良瀬はチュウビ、ミサゴや

居付きのハヤブサなどのタカ類が楽しみです。谷中湖ではたくさんのカモ類やカイツブリ類が待っています。ミコアイサも白くなっているでしょう。ベニマシコなどの冬の小鳥たちも素敵ですよ。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：12月18日（土）

集合：午前9時30分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅から、立正大学行き9:10発バスで「滑川中学」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。

費用：入園料400円（子供80円）、65歳以上200円（要年齢を証明できるもの）。

担当：中村（豊）、岡安、佐久間、大坂、青山、内藤、藤掛、後藤、山田（義）、藤澤、宇野澤

見どころ：今月の特集をご参照下さい。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：12月18日（土）午後3時～4時頃

会場：会事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：12月19日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、船木、畠山、柴野

見どころ：見沼たんぼの新しい活用、保全の大綱が決まりました。内容に探鳥会の継続開催が反映しています。自然保護と探鳥を頑張っ、今年も暮れます。冬鳥を楽しみに三室の忘年探鳥会へぜひどうぞ。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：12月19日（日）

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花崎駅改札口。または午前9時、加須はなさき公園

駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部 8:22→久喜 8:35
→花崎 8:42 着。JR 宇都宮線大宮 7:58→久
喜 8:23 で東武伊勢崎線乗り換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所

担当：青木、中里、内田、長嶋、四分一、栗
原、植平、長谷川、茂木

見どころ：静かな公園の中をゆっくりと探鳥
します。昨年は 39 種の出現（詳細は 2010
年 5 月号、行事報告参照）でした。残りわ
ずかな今年に、素敵な鳥たちとの出会を期
待しましょう。

年末講演会

日時：12 月 23 日（木・祝）午後 1 時開場。

会場：浦和コミュニティセンター 9 階第 15 集
会室（浦和駅東口 PARCO の中）。

参加費：100 円（中学生以下無料）

開場：午後 1 時

第 1 部：午後 1 時 30 分～2 時 45 分

ビデオで振り返るこの 1 年、他。

第 2 部：午後 3 時 00 分～4 時 30 分

講演「日本野鳥の会の保護プロジェクト～カ
ンムリウミスズメとアカコッコを中心に
～」講師 江崎逸郎氏（三宅島自然ふれあい
センター・アカコッコ館 レンジャー）

野鳥の会の重点事業カンムリウミスズ
メの調査とその成果、アカコッコの個体数
一斉調査、三宅島の生き物たちと島人の生
活、盛りだくさんの内容です。

懇親会：氏を囲んで、会費 4,000 円。はがき
〒 橋口



アカコッコ

長和、またはメール

宛て、12 月 19 日までにお申し込みくださ
い。

その他：第 1 部の映像・画像・スライドも募
集中。あなたの傑作を 5 分以下程度に編集
して、前同橋口宛にお申し込みください。

幸手市・宇和田公園探鳥会

期日：12 月 26 日（日）

集合：午前 9 時 15 分、宇和田公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線東武動物公園東口から
境車庫行き 8:45 発バスにて「上宇和田」下
車、北方向に徒歩約 5 分。

担当：中里、四分一、栗原、植平、佐野、佐
藤

見どころ：今年も 1 年間楽しませてくれた鳥
たちに、感謝の気持ちを送ります。

さいたま緑の森博物館の探鳥会

狭山丘陵の一角にある県立さいたま緑の
森博物館主催の探鳥会が 2011 年も開催され、
本会の石光章・持丸順彰・小林ますみ・水谷
眞人が案内役としてお手伝いいたします。一
般の方を対象にした催しですが、本会会員の方
にもぜひ参加していただきたく、ご案内し
ます。

開催日：2011 年 1 月 8 日（土）、2 月 5 日（土）、
3 月 5 日（土）

集合時間：各回とも午前 9 時受付開始

集合場所：さいたま緑の森博物館・案内所（駐
車場あり）

交通案内：西武池袋線小手指駅南口から西武
バス「宮寺西」行き 8:13 発に乗車して約
25 分、「荻原」下車、徒歩約 10 分。車は国
道 16 号宮寺交差点から約 2.7 km。

解散：昼ごろ（飲み物をご用意ください）

定員：各回 20 名（小学生以上、小学生は保護
者同伴）

参加費：100 円（保険料）

申込み：さいたま緑の森博物館まで電話（04-
2934-4396）でお申し込みください。（先着順、
午前 9 時～午後 4 時、月曜休館）



行事報告

7月25日(日) 狭山市 入間川

参加：30名 天気：晴

ササゴイ ダイサギ アオサギ カルガモ トビ
オオタカ イカルチドリ キジバト カワセミ
コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキ
レイ セグロセキレイ ヒヨドリ シジュウカラ
メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクド
リ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
(25種) (番外：ガビチョウ、ドバト) 見どころの
少ない暑い夏の目玉としているササゴイが2年ぶ
りに登場。カワセミやオオタカも出て、この季節
としてはまずまずか。昨年7月に初記録のガビチ
ョウは、今後出現率が高まりそうな感じ。

(長谷部謙二)

8月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：13名

新井浩、江浪功、榎本秀和、海老原教子、海老原
美夫、大坂幸男、佐久間博文、柴野耕一郎、志村
佐治、武井暁嗣、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫

8月22日(日) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加：42名 天気：晴

カワウ ダイサギ コサギ シロチドリ ダイゼ
ン キョウジョシギ トウネン キアシシギ オ
オソリハシシギ ミヤコドリ オオセグロカモメ
ウミネコ アジサシ コアジサシ キジバト ハ
クセキレイ セッカ スズメ ムクドリ (19種)
猛暑という割には海辺のせいか思ったより暑くな
かった。潮の関係で干潟が遠く、シギ、チドリが
いてもなかなか識別ができず、また、異常気象の
せいか数も少なく感じた。

(佐久間博文)

8月29日(日) 千葉県 谷津干潟

参加：51名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
ギ カルガモ オナガガモ (越夏) コチドリ シ
ロチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン
アオアシシギ キアシシギ イソシギ ソリハシ

シギ セイタカシギ ウミネコ キジバト ツバ
メ ハクセキレイ ヒヨドリ シジュウカラ メ
ジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ
ハシブトガラス (29種) (番外：ドバト) 観察して
いる間に干潟が出てきて、シギ・チドリがちらほ
ら見られたが、終了後に三番瀬方面から大挙して
飛んできた。二次会の方がおもしろそうと言っ
たらあたってしまった。アカエイやイモムシを観
察して楽しんでいる人もいた。

(杉本秀樹)

9月5日(日) リーダー研修会

参加：44名 場所：埼玉県自然学習センター

平成22年度のリーダー研修会をリーダーと新規リ
ーダー9名併せて44名の参加を得て開催した。当
日は日本野鳥の会関東ブロック協議会と重なり、
藤掛支部長と海老原副支部長は午後からの参加と
なった。今年の研修は座学のみで模擬探鳥会の実
習は行わなかった。本年度改訂した『探鳥会の進
め方』をテキストとして、探鳥会の企画から実施、
終了後の事務処理まで、多岐にわたる事項をディ
スカッションを交えながら確認した。昼食を挟み、
午後からは恒例の自己紹介を行い、事務局から埼
玉県支部の歴史・役員および組織・活動状況の説
明があり、各部の部長から現状報告があった。特
に小荷田研究部長から「埼玉県平野部における問
題のある繁殖鳥類」について報告され、研修会ス
ケジュールをすべて終了した。

(橋口長和)

9月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加：29名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ トビ
ノスリ キジ アオアシシギ イソシギ キジバ
ト ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ
セグロセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ シジ
ュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシ
ボソガラス ハシブトガラス (24種) (番外：ドバ
ト) 集合時には小雨も降って猛暑も心配なさそう
なので久しぶりに明戸堰まで歩くことにした。出
発地の大麻生駅上空を飛ぶノスリを見上げてスタ
ート。土手下の田圃では樹の天辺でモズが高鳴き
して未だ暑さが残る中でも秋を感じる。終点の明
戸堰の上流には新しい浅瀬が出来つつありアオア
シシギなども見られ、これから冬鳥の飛来が楽し
みだ。

(大澤 祐)

9月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 10名

新井浩、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、柴野耕一郎、志村佐治、武井暁嗣、藤掛保司、増尾隆

9月19日(日) さいたま市 三室地区

参加: 50名 天気: 晴

ゴイサギ ダイサギ カルガモ オオタカ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ シジュウカラ ホオジロ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (20種) 暑かった夏だが土手に上がると風が初秋を運んで来る。青空に黄金色の田んぼを見降ろしオオタカが飛んで、モズの鳴き声を楽しむ探鳥会になった。

(楠見邦博)

9月19~20日(日~月) 長野県 白樺峠と乗鞍

参加: 25名 天気: 19=晴、20=雨後曇

ミサゴ ハチクマ トビ ノスリ サシバ キジバト アオバト ハリオアマツバメ アマツバメ ヒメアマツバメ イワツバメ キセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス イワヒバリ カヤクグリ ウグイス コサメビタキ エナガ コガラ ヤマガラ シジュウカラ ホオジロ スズメ カケス ホシガラス ハシブトガラス (28種) 予定より早く乗鞍に到着。あちらこちらにホシガラス。お目当てのライチョウは、見る事ができず残念。夜は、宿自慢のきのこ料理で舌鼓。親睦会は大盛況! 翌朝は、雨がトタンを叩く音で起床。朝食は、郷土料理のとうじそば。食べている最中に雨も上がり白樺峠に出発。白樺峠は、天候が悪くタカ柱を見ることが出来なかったが、目の前をハリオアマツバメの群れが何回も飛んでくれた。午後1時前に小雨が降り始めたので帰路についた。参加者のこのころのページには、大黒岳から見た穂高連峰の山々の雄大な景色が彩られた。(入山 博)

9月20日(月、休) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 12名 天気: 曇

相原修一、青木正俊、浅見徹、石井智、海老原美夫、大井智弘、柴野耕一郎、鈴木敬、竹川潔、持丸順彰、吉原早苗、吉原俊雄。さいたま市の大久保農耕地で実施。お疲れ様でした。(石井 智)

9月20日(月、休) 松伏町 松伏記念公園

参加: 25名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ チョウゲンボウ キジ クサシギ イソシギ キジバト ツツドリ コゲラ ツバメ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ セッカ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外: ドバト) 猛暑の名残で蝉の合唱の中で集合。冬鳥が来ているか心配しながらのスタート。公園の池の水鳥はゼロ、落胆をコゲラとシジュウカラの混群とツツドリが救ってくれた。農耕地に出ても鳥の影が薄い。ここはチョウゲンボウの狩とクサシギが繋ぎ、中川ではコガモの一群と咲き始めたばかりの彼岸花やダイサギ、チュウサギ、コサギ3羽の揃い踏みで後押しされて無事終着点に戻りついた。鳥合せをしたら29種はいつもの数字でやっとな肩の荷が下りた。地元公民館からの参加者が3名だったのが少し残念だった。(田邊八州雄)

9月23日(木、休) 坂戸市 高麗川

雨のため中止。

(山口芳邦)

10月3日(日) 北本市 石戸宿

参加: 42名 天気: 晴

カイツブリ ゴイサギ マガモ カルガモ コガモ ハシビロガモ トビ オオタカ ツミ チョウゲンボウ コジュケイ バン キジバト カワセミ コゲラ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ モズ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) (番外: ガビチョウ) スタート前から学習センター前の橋から順光のカワセミを観察。鳥影は薄く、静か。草花は、ヒガンバナ、ミズソバ、ツリフネソウ、キツリフネが綺麗だった。ヤマジノホトトギスなどの花も見られた。また、ツクツクボウシの声も聞かれて、まだ夏は終わっていない?の気配。渡りの途中の小鳥類(夏鳥)が見られなかったのが残念。ガビチョウは8月に続けて出現しないかと思われたが、荒川の河川敷に降りる道の右側の竹やぶから声がした。荒川河川敷で上空のツバメ類、ワシタカ類を充分に観察した。ヒヨドリやカケスの渡りも見られた。(吉原俊雄)

野鳥記録委員会最新情報

日本野鳥の会埼玉記録委員会



●イワミセキレイ

分類 スズメ目セキレイ科イワミセキレイ属

英名 Forest Wagtail

学名 *Dendronanthus indicus*

本年9月18日(土)朝8時頃、さいたま市桜区大久保農耕地の雑木林で、中沢敏明さん(さいたま市・未会員)が撮影しました。「木から降りて地面をたたく様なしぐさで虫を取る1羽の鳥を発見。木の枝にとまった時、尾を左右に振っていた。2分間位の間に6枚位撮影。その後荒川に向かって飛んで行った。もう一度会いたくて後日その場に2〜3回行ったが、会えない」とのこと。

本種は1986年1月30日に所沢市中富の雑木林で1羽観察されたのが県内唯一の記録で、今回は2例目の確認記録です。



連絡帳

●見沼たんぼ写真コンクールに協力

見沼たんぼネットワーク主催「私の好きな見沼たんぼ 2010」写真コンクールに「DVD バードウォッ

チング入門」3セットを賞品として提供し、10月16日(土)の表彰式に浅見徹幹事が出席しました。

●新しい腕章と集合旗をリーダーに

「日本野鳥の会埼玉」の集合旗も納品され、集合案内に立つリーダーと役員に腕章と旗、その他のリーダーに腕章を送るための袋づめ作業を、台風のさなか10月30日(土)午後4時から実施。同日中に発送しました(海老原教子・海老原美夫・大坂幸男・田邊八州雄・長野誠治・橋口長和・藤掛保司・持丸順彰)。

●普及活動

10月2日(土)蓮田市環境学習館で開催された同館主催バードウォッチング教室で、中島康夫・玉井正晴・田中幸男・赤坂忠一が指導しました。

●会員数は

11月1日現在2,045人です。

活動と予定

10月9日(土)11月号校正(大坂幸男・志村佐治・長嶋宏之・藤掛保司・山田義郎)。10日(日)同(海老原美夫)

10月17日(日)役員会(司会:浅見徹、各部の報告・1月〜4月の行事予定・その他)。

10月18日(月)「支部報だけの会員」に向け11月号を発送(倉林宗太郎)。

●12月の予定

12月4日(土)編集部・普及部・研究部会。

12月11日(土)1月号校正(午後4時から)。

12月18日(土)袋づめの会(午後3時から)。

12月19日(日)役員会(午後4時から)。

編集後記

10月のある日、コンクリートの道にお尻を何度も押しつけているトノサマバッタを見た。土の中に産卵したいのに、コンクリートと土の区別がつかないために見られる姿だとか。虫とっていろいろ大変な時代になったものだ。(藤)

しらこぼと 2010年12月号(第320号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社